

科学博物館ニュース速報

Vol.42 2020/3/27



2019年度をふりかえって 年度末特集号

館長よりメッセージ

▶ 高木康博（科学博物館長・工学部工学府教授）

このニュース速報で館長としてメッセージを書くのも、今回が最後になります。私の任期の3年間で振り返って、実現できたことを記録として書き残したいと思います。

①イベントの充実

当館が行う地域向けイベントとしては「国際博物館の日関連イベント」と「サマーフェスタ」があります。他では体験できない特徴ある体験型イベント（わら細工やひも結び細工のような手芸からカイクの生態展示まで）であるにもかかわらず積極的な宣伝がなされておらず勿体ない状態でしたので、カラー刷りチラシを作成し近隣の小学校で配布する、新聞折り込みするなどの広報活動に力を入れました。現在では、リピーターが毎年来るようになり、また、お父さんを含む家族連れが訪れる地域に愛されるイベントになりました。昨年度から大学創立記念祭と同時開催とし、大学キャンパスを親子でゆっくり楽しんで貰うことも可能になりました。

②来館者数アップ

当館には、前回の建物のリニューアル時に定めた年間来館者数3万5千人という目標があります。素人館長としては、わかりやすい数値目標なので、最初の頃は、かなり意識して取り組みました。上記のイベントの活性化、企画展・特別展の充実、農学部分館の活動の実質化などにより、昨年度は来館者数が3万人を超えました（以前は2万人程度）。ただ、数値目標に拘るあまり、スタッフに大きな負担をかけてしまったことが反省点でした。今は、数値よりも内容の方が大切だと思っています。ただし、塩漬け状態になっていた農学部分館が機能し始めたことは良かったと思います。来館者数アップを目指して行った様々な工夫は今でも機能していて、今年度は、3月を新型コロナウイルス対応で臨時休館にしたにもかかわらず、3万人弱の来館者が確保できています。

目次

～ 特集 2019年度をふりかえって ～

- 館長よりメッセージ／高木康博……………P.1,2
- 一年間をふりかえって／齊藤有里加……………P.2
- 助走期間の2019年度から2020年度は
ハイジャンプ！／棚橋少由理……………P.3
- 博物館業務をふりかえる／鎌田忍……………P.3
- 繊維技術研究会活動報告／永井徹……………P.3,4
- 友の会活動報告2019／沖愛子……………P.4,5
- 友の会修了生へ贈る言葉／國眼孝雄……………P.5
- musset 活動報告／丸山海斗, 田島玲……………P.5,6
- 学芸員出張報告／齊藤有里加, 棚橋少由理……………P.7
- メディア掲載報告絵, etc.／鎌田忍……………P.7
- デジタル教育研究展示室 OPEN／棚橋少由理……………P.8
- 博物館事務室から／石田朋子……………P.8
- 編集後記・Information……………P.8

③3支援団体との関係強化

当館には、繊維技術研究会（大型繊維機械の維持・動態展示を行う専門家ボランティア集団）、友の会（地域住民の学習の場）、musset（学生サークル）の3支援団体があります。この3年間に、これらの団体との話し合いの場を定期的に設けるなどすることで、博物館との距離がだいぶ近くなったと思います。それぞれの団体からの要望を聞き、可能なものは実現するように努めてきました。大学、学部の協力も得ることができました。これが直接の理由ではないと思いますが、3団体とも活動が活発になったと感じています。繊維技術研究会は、動態展示の充実に加えてデジタル化の波にもしっかりと乗っています。友の会は、活動環境の改善よりのびのびと活動しています。mussetは、メンバーが増えてサイエンスマルシェ（実験教室）の開始など活動の質と幅が着実に向上しています。

④クラウドファンディングの成功

当館の収蔵庫に眠っていた明治期に存在した第二の官営製糸場である葵町製糸場の図面をもとに、これをデジタル復元するクラウドフ

ファンディングを実施しました。本学初のクラウドファンディングでありましたが、卒業生を中心に200人を超える方から支援を受けることができました。頂戴した寄付を利用したデジタル化プロジェクトも予定通り実施できています。全国の国立大学のクラウドファンディングの成功例として文科省から高く評価され、大学にも貢献することができました。正直に言うと、とても大変でしたが、学内での博物館の存在感アップ、卒業生との繋がりが作れた点で実施して良かったと考えています。葵町製糸場が、明治期の日本の近代化において富岡製糸場と同等な役割を果たしたにもかかわらず資料がほとんど残っていない幻の製糸場であったことから、大手新聞社など多くのメディアに取り上げてもらいました。また、クラウドファンディングの実施を通して、富岡製糸場やトヨタ博物館など他の博物館との協力関係も生まれました。

⑤5カ年計画(デジタル化によるリニューアル)の開始

当館は、2012年に、建物の改築によるリニューアルを受けています。将来のことを考えて、デジタル化によりリニューアルを行う科学博物館5カ年計画を立ち上げました。詳しい内容については、ニュース速報40号をご覧ください。今年度が1年目になりますが、順調に進んでいます。館内デジタル閲覧システム(iPadと大型モニター)を導入し、デジタル教育研究展示室(レーザープロジェクタと大型スクリーン)も整備することができました。また、当館の貴重資料をデジタルアーカイブした錦絵コレクションと蚕糸関係学術コレクションを作成しました。さらに、教育用資料として岩石コレクションも作成しました。将来に向けた資料収集を戦略的に行う新・農工大遺産は収集規程を作成し、大学史デジタル化についてはデジタル化方針が決まりました。今後は、Webによる情報発信として、国主導のポータルサイトJapan Searchに参画して、グローバルに農工大と当館の魅力を発信していきたいと考えています。また、デジタル閲覧システムの農学部分館への設置、デジタルアーカイブのさらに充実を目指していきたいと考えています。

最後になりますが、博物館スタッフの方々には心から感謝したいと思います。学芸員の先生たち(斉藤先生、棚橋先生、東大に異動された飯野先生)が博物館の専門的な仕事を確実に行って頂けたため、分野外の館長が自由な発想で仕事をすることができました。博物館事務の方々(鎌田さん、北川さん、石田さん、松隈さん)には、博物館の様々な業務をこなして頂き、また、多種多様な来館者や団体見学者に対して丁寧に接して頂き感謝しております。特に、鎌田さんと北川さんは今年度で定年退職されますので、長年に渡る博物館への貢献に感謝の意を表したいと思います。副館長を努めて頂いた横山先生には、様々な仕事を快くお引き受け頂き、また、当館の魅力アップに努力して頂き感謝しております。当館は、3支援団体も含めて多くの人々が行き交い、多くの人に支えられている博物館だと思います。今後の東京農工大学科学博物館のさらなる発展を期待して、私の最後の文章とさせていただきます。



東京農工大学科学博物館友の会の方々と。前列は友の会会員。
後列左から高木館長、國眼友の会会長、斎藤学芸員。

～一年間をふりかえって～

▶東京農工大学科学博物館特任助教 学芸員 齊藤 有里加

今年度は台風19号の襲来など落ち着かない日々が続き、企画展の準備もいつもと違った緊張がありました。そんな中、博物館の5ヶ年計画として、クラウドファンディングによるデジタル化のプロジェクトが動き、学生を始め多くの方のご協力により3D化がかないました。図面の写真を館長に見せた時、和紙に手描きのバラバラのパーツだったので、「本当に製糸場なの？」と半信半疑で言われたことを思い出します。

大変だったのはレンガの図面です。寸法がうまく合いません。「絶対レンガの煙道設計は大変だったと思う。自分だったら作りたくない！」とみんなで愚痴をこぼしていました…。でも、「この機構はうまくつながるのでは？」など当時のエンジニアの気持ちを学生とともに追体験していくことができました。

新型コロナウイルスの影響で、今世界的に外出が制限され、資料と来館者が切り離されている状況にあります。世界の博物館がSNSで、資料と人々をつなげようとデジタル領域を駆使した機運が高まっていることを肌で感じ、新しい博物館ができることにチャレンジする時期が来たことを実感しています。作った3Dデータやデジタル化を進めている資料がこれから役に立てるのではないかと感じます。

博物館5ヶ年計画でのデジタル化がこれからの博物館をより大きく発展させることを期待して、新たな年に臨みたいと思います。



完成した葵町製糸場の模型と3D映像

～助走期間の2019年度から 2020年度はハイジャンプ!～

➤ 東京農工大学科学博物館学芸員・特任助教 棚橋 沙由理

2019年10月に当館に入職してから、はや半年。目まぐるしく時間が過ぎていきました。ようやく展示解説も担当させていただくようになりましたが、まだまだ修行中です。当館は古くは明治期の参考品陳列場にはじまり、繊維学部時代から受け継いだ繊維関連の多様な学術資料群を現在まで大切に保存しています。ですので、これらは蚕糸学・製糸学・文化人類学・歴史学といったあらゆる観点から研究対象になりうるような特色ある資料群ですが、その分勉強も必要です。当初から慣れないなかにも、このような貴重な資料群に囲まれ誇らしい気持ちで職務にあたってきました。

さて、私がこれまで息切れもせず走り切ることができたのには、博物館支援団体の皆さんのサポートを挙げずにはいられません。友の会・繊維技術研究会・musset（ミュゼット）の特徴ある3団体の皆さんは、貴重な資料群と同様に大きな価値のある当館の大切な財産です。3



デジタル教育研究展示室、博物館内にOPEN!!

3団体の皆さんには感謝の気持ちでいっぱいです。また、皆さまの熱意が私の活力の根源となっています。

さて、私の当館の初仕事となりました大学博物館のコモンズ・「デジタル教育研究展示室」が、いよいよオープンします。大学博物館とラーニングコモンズを掛け合わせた新しい展示室の構想は、私の着任前から議論されてきました。新しくポテンシャルの高い試みではあるけれど、アイデンティティをどこに据えたら良いのか？悩みどころでもありました。しかしながら、そこは難しく考え過ぎず、柔軟に対応していけば良いのではと、本学の懐の深さに甘えています。今後、当館内外の皆さまにご使用いただきながら、先端知と伝統知が分野横断的に交わる交流拠点として柔軟かつ活発に機能を果たしていければと思っています。この新しい展示室でどのように試みが可能なのか、可能性は無限大です。ぜひ皆さまとともに成長していく展示室として、今後ともご指導を賜りますようお願い申し上げます。

さて、2020年度の春夏期には女性研究者の躍進をテーマとした展覧会を開催予定です。過去から現在までの本学の女子学生教育のあり方や女性研究者の活躍を紹介し、来館者の皆さまと未来を展望できるような展覧会になればと企画を練っています。どうぞ、ご期待ください。

博物館業務を振り返る

～農工大博物館の発展を願って!～

➤ 東京農工大学科学博物館事務 鎌田 忍

本年3月末日をもって定年を迎えることとなりました。本学で勤務している間、数か所の部署を経験してきましたが、博物館での勤務が非常に長い結果となりました。辛かった思い出や楽しかった思い出もありましたが、印象に残っている辛かった思い出をひとつあげると、入館が有料だった時代、入館者からのクレームを述べたいと思います。ある大人の方からある展示物の上に粘着テープが置き放しだったのを指摘され、こんな状態で入館料を払わせて入館者に展示物をみせるのはどういうことかと咎められ、入館料をお返しして、二度とこのような事の無いようにすると言ってとにかく平謝りしたことがありました。有料の難しさを痛感しました。その後、規則が変わって無料になってこのようなクレームは経験した記憶はありませんが、展示物及び展示物周りは綺麗にしておくことにしたことはないと思います。楽しい思い出というか気分の良い思い出としては、友の会サークルの皆さんの活発で元気の良い活動振りを主に受付の側から感じ、元気を頂いていた事かと思えます。朝は元気に挨拶を交わし、帰りはありがとうございます!と声を掛けられ、沈んでいた自身の気持ちが癒されたことでしょうか。博物館業務の一部である地域の皆さんのための社会教育や生涯学習の手助けになればと努めてきたつもりです。もちろん私共の力だけではなく、博物館関係者の皆様の援助があってこそです。長い間お世話になり感謝申し上げます。

今後の博物館の益々の発展を願っております。

繊維技術研究会活動報告

～2019年度 織技研の活動をふりかえる～

➤ 繊維技術研究会 会長 永井 徹

当科学博物館の特長である各種繊維機械の動態展示は、問題を抱えながら機械担当者を中心に関係者協力して、稼働出来たと思いません。稼働を見て機構や技術の特徴を理解するのにモニター画面を利用してみました。

もう一つの活動の講演会は、首都圏エリアで実績がお有りの方と言う事で、飯能市(株)マルナカ中里様、青梅市藍染め 壺草苑村田様、をお願いいたしました。

しかしながら、9月に開催しました小此木先生の農工大と皇室御養蚕所のお話が人気でした。

今後は、動態展示をどのようにして、維持継続することが、可能かが、大事な問題です。織技研が、単独で解決すべき事項でありませぬし、できません。戦略的に全学的にと思えます。



繊維技術研究会会員による来館者への動態展示とミーティングの様子。

友の会活動報告 2019

▶ 東京農工大学科学博物館友の会副会長 沖 愛子

年度末にあたり友の会の活動報告をいたします。

役員会 定例、臨時合わせて 19 回、その他イベント開催時にはスタッフとして参加/サークル代表者会 定例 4 回、マネージャ会 2 回/サークル講習会(年に一度市民を対象に講習会をしている) 10 サークル計 188 名参加/活動の成果をみていただくサークル作品展: 2 月 1 日~8 日 来場者数 2,843 名/作品展実行委員会(サークルから選出された委員が企画・運営)委員会開催 7 回/地域支援実行委員会(秋に実施する小金井市の市民まつりでバザー実施)委員会開催 6 回(この収益は友の会支援活動の資金になる。)

○地域支援活動

- ▶ 博物館支援活動:
 - ・5 月博物館の日。創立記念祭 公開ワークショップ 422 名参加、創立記念祭バザー
 - ・8 月サマーフェスタ 公開ワークショップ 469 名参加
- ▶ 近隣支援活動:
 - ・東小金井駅 nonowa「家族の文化祭」ワークショップ
 - 春: 4 月 21 日 型絵染を体験してみよう 83 名参加 型絵染サークル OG と役員有志
 - 夏: 8 月 3 日 棕櫚の葉でへびをつくろう 50 名参加 つるかごサークル OBG ほかに役員有志
- ▶ 教育支援活動:
 - ・真綿のうちわとしおりづくり/国分寺市立第十小学校 9 月 3 日三年生総合学習で 児童 2 クラス 62 名 絹サークル
 - ・手紡ぎ体験 羊毛からスピンドルで糸を紡ぐ/手紡ぎサークル有志、三鷹市立第四中学校・特別支援学級 2 月 14 日 参加生徒

16 名 手紡ぎサークルと OG 有志

市民活動支援:

- ・薬(ヒコバエ)=わら工芸サークル OBG /農工大府中農場で 10 月 7 日 「環境市民の会」にカタツムリづくり体験とわらの講話を行った。その他、小金井市、江東区、杉並区などや富山県氷見市の神社に注連縄飾りの指導などに出かけている。
- ・手紡ぎサークル 彩の国ふれあい牧場ワークショップ/埼玉県秩父高原牧場 5 月 6 日、10 月 12 日
- ▶ 南相馬継続支援活動:
 - ・2019 年度は会が南相馬を訪問することはなかったが、南相馬の藍染のグループから講習会に参加 2 名、作品展への展示出品と見学来訪があり、交流が続いている。
- ▶ その他ボランティア活動:
 - ・毎年恒例 環境整備 博物館南庭に面した場所とプレハブ周辺を分担して草抜きと落ち葉掃き
 - ・他 前庭花壇の手入れ等

○特別活動

- ▶ 土曜講座 鹿の子絞りと植物染 <会員限定> 6 月 27 日、7 月 27 日 2 回連続講座/講師 三谷文子氏 各回 15 名の参加
- ▶ 講演会 皇居紅葉山御養蚕所と農工大について <繊維技術研究会:共催講演会>9 月 24 日/講師:小此木エツ子氏 聴講者約 100 名

以上、会員の皆さまのご協力、博物館のご支援により、活動できましたことをお礼申し上げ報告といたします。

2019 年度~2020 年度への更新期に、新型コロナウイルス対応のため、例年にない状況が生まれました。2 月末から始まった新規入会者のための面談は、マスク着用・換気・手指の消毒などの準備に忙殺されつつも無事、新会員を決めることが出来ました。

とうとう 3 月 7 日から休館になり、この後予定されていた 3 月 14 日サークル修了式、4 月 4 日のサークル発足式・友の会総会は中止せざるをえなくなりました。

下記に少人数に分けて実施された館長室での修了証授与式の写真と博物館友の会会長の贈る言葉(抜粋)を掲載します。



感染症予防のため修了式は中止、館長室にて少人数に分けての修了証授与式を行いました。後列左から高木館長、國眼会長、齊藤学芸員、沖副会長。

～友の会修了生の方へ、贈る言葉～

▶ 東京農工大学科学博物館友の会会長 國眼 孝雄

入学当初のワクワク感、2年目のちょっと戸惑い、3年目になると面白くなり、4年目には後輩への教える喜びと充実感などを味わった方は多いのではないのでしょうか。そして総仕上げの卒業作品展。これは、素晴らしい出来栄の作品ばかりで、その作品の完成度の高さは驚くばかりでした。

私のささやかな人生経験から言えば、4年間で培ったものを生かし、他の人に喜んでもらえる活動は人生をより豊かにすると確信しています。加えて今後とも友の会のOB、OGとして東京農工大学科学博物館の地域貢献を支えていただけると嬉しい限りです。皆さまの今後の益々のご活躍を祈念してお祝いのごことばとします。

※<國眼会長>の送る言葉から抜粋



上2枚は小金井市民まつり、博物館友の会バザー出展の様子、下2枚は今年2月の作品展。左は織物サークル、右は型絵サークルの展示。

工学部musset 活動報告

～一年間をふりかえって～

▶東京農工大学工学部物理システム工学科2年 丸山海斗

今年度、musset ではサイエンスマルシェを引き続き実施したとともに、サイエンスアゴラなど外部でのイベントにも参加をしました。

サイマルでは、企画者を徐々に先輩方から2年へと移行しました。本年では工学部9企画のうち6企画を2年がリーダーとなって実施しました。先輩方には、企画を準備段階からみていただきアドバイスをいただき、改善をしていきました。また、後輩たちには積極的に声をかけ主に企画を補助してもらうTAとしての活動をしてもらいました。回を追うごとにサイマルへの理解を深めてもらい、来年度はその経験を生かし企画を持ってもらいたいと思います。また、すでに企画を持った1年生は悪戦苦闘しながらも1年生同士で助け合い企画を完成させることができていました。来年度も引き続き子供たちと科学を楽しめる企画をしていきます。

また、外部活動では他団体の活動、自分たちのスキルアップを目標にサイエンスアゴラへ参加しました。目立つのは企業の参加や、高校生の部活動としての参加で私たちのような学生団体は珍しいと感じました。空き時間に他団体の企画に参加しましたが、大人向けのポスターや、子供向けの簡単な実験などが多く、mussetの「原理を大切に科学を楽しむ」という強みを実感することとなりました。参考になるお話も多く聞くことができ、各々得るものがあつた活動となりました。

来年度、musset ではサイエンスマルシェの実施、外部活動への参加、農学部との連携をしたいと考えています。すでにサイエンスマルシェはリピーターの方も多く、人気の企画になっていると感じています。また、12月に行われた回では農学部の企画が非常に人気の高いものでした。工学部では扱えない生物系の内容など農学部ならではの企画で、サイマルを実施したいと思います。また、外部活動の参加に関して、たても園フェスティバルがあります。残念ながら、今年はコロナウイルスの影響で参加取りやめとなってしまいましたが、来年こそは参加できるよう願っています。

本年度は博物館に関わる皆様にご支援をいただき活動することができました。心より感謝申し上げます。来年度も積極的に活動をしていきたいですので、引き続きよろしく願っています。

※musset・・・東京農工大学科学博物館支援学生団体です。



大学生と実験結果について話し合っている様子。単に実験をするだけでなくその先まで一緒に考えています。



実際に実験をしている様子。初めて見る、触れたことのない器具も大学生と一緒に使っています。



12月農学部 musset サイエンスマルシェ「意外と知らない!?ウズラの世界」。動物と触れ合える企画にみんなワクワクしています！

農学部musset 活動報告

～一年間の活動をふりかえって～

▶東京農工大学地域生態システム学科3年 田島玲

2019年度は、「自分たちが面白いと思うことを届けること」を活動していく上で心がけました。それは「大学生である自分たちが『面白い!』と思ったことでないと、伝える相手も面白くないのでは」と感じたからです。そのため、今まで長くやってきたブルーベリーのテーマに代わって、身近でありながら意外と知られていない「ウズラ」を年間のテーマとして選びました。文献調査の際も、インタビューの際も、パネルを作成していく際も、大学生目線で新鮮だなと思うことを中心に調べ、伺い、まとめました。その結果、学祭で来場者の方の反応も今までで一番得られ、双方が話しやすい雰囲気を作れたのではないかと思います。

また、誰に何を伝えたいのかを意識しながら活動しました。特に、今年初めて参加させて頂いたサイマルでは、ウズラを題材にしてどこが一番面白いと感じてほしいかを意識して、構成を立てました。変化が少ない動物を「教える」のではなく、「感じてほしい」と思い、タマゴや親鳥とのふれあいも組み込みました。しかし、実際に当日を迎える中で、準備の甘さや動物を題材にしたプログラムの難しさを感じました。メンバーと参加者の間で双方向ではなく、一方通行なコミュニケーションになってしまう場面があり、反省点も多く見つかりました。

今後の活動では、新しい伝え方に挑戦していきたいと思います。例えば、せっかく農学部にまつわるテーマで展示パネルを作成するのなら、学祭ではガイドだけでなく、実験や体験を取り入れてみたいです。サイマルについても、今年度の反省点を活かして、より参加者が主体的に参加できるようなプログラムを作れたらと思います。最後になりますが、絶えず農学部mussetを気にかけて下さった工学部の方々、今年度インタビューさせて頂いた先生方、科学博物館の齊藤先生、横山先生、本当にありがとうございました。来年度以降も農学部mussetを宜しくお願いします。

年間スケジュール

新歓	パネル作成	学祭	サイエンスマルシェ
<ul style="list-style-type: none"> 健康診断 サオリ 学祭情報誌 学生会 部会 	<ul style="list-style-type: none"> 中間発表会 パネル作成 インタビュー 構成決め テーママ決め 	<ul style="list-style-type: none"> 本番 本番制作 本番アップ 	<ul style="list-style-type: none"> 本番 本番制作 本番制作 企画決め 材料調達
4月	4-9月	10-11月	11-12月

新歓

サオリや学芸員説明会、日頃の部会を中心にして新歓を行いました。1年生2人、2年生が1人入り、2019年度は総勢8名となりました！例年に比べて、とにぎやかです！

サイエンスマルシェ

意外と知らない!? ウズラの世界
2019年12月21日(土)
@慶工大博物館3F実験室

今年初めての試みとして、工学部で開催されているサイエンスマルシェに参加しました。大学の研究で使われているという強み活かし、うずらをテーマに体験型のプログラムを実施しました。初めてうずらに触れる人にも、「面白い!」と思ってもらえる企画を目指しました！

2019年度農学部 musset 活動報告書より転載

学芸員出張報告

～京都工芸繊維大学での調査～

➤ 東京農工大学科学博物館学芸員・特任助教 齊藤 有里加

京都工芸繊維大学に古くからの蚕糸学術コレクションがあると伺い、調査に行きました。京都工芸繊維大学は、1914年に設立された京都蚕業講習所が前身となっています。東京蚕業講習所（東京農工大学工学部）、京都蚕業講習所（京都工芸繊維大学）、上田蚕糸専門学校（信州大学繊維学部）は三織と呼ばれ、日本の繊維の技術研究者を多く輩出しました。今後近代蚕糸技術の系譜を示す資料として貴重な資料をたくさん拝見させていただきました。ご対応いただきました京都工芸繊維大学の一田先生に心より御礼申し上げます。

～全科協第27回研究発表大会に参加しました！～

➤ 東京農工大学科学博物館学芸員・特任助教 棚橋 沙由理

2020年2月13、14日の2日間にわたりオーテピア・高知みらい科学館（高知県高知市）にて全国科学博物館協議会の理事会・総会および第27回研究発表大会が開催されました。風光明媚な土佐の地に、全国の科学博物館・理工系博物館・科学館の職員が参集しました。1日目（13日）の総会では、ICOM京都大会2019参加報告や文化庁博物館振興施策等概要説明がなされました。2日目（14日）の研究発表大会では、「博物館の社会的役割を考える～持続可能性の観点から」という大会テーマのもと、各館園から事例発表がおこなわれました。私は「伝統知と先端知が交わる知の交差点を目指して～東京農工大学科学博物館の新たな試み～」というタイトルにて口頭発表をおこないました。内容としては、「東京農工大学科学博物館の歩みとコレクションおよび支援団体について」・「デジタル化によるリニューアル計画と勸工寮葵町製糸場図面3D化プロジェクトについて」・「SDGsと館内コモンズ『デジタル教育研究展示室』の開室について」の3本立てです。

質疑応答では、他館園職員の参加者からいろいろな質問が飛び出しました。勸工寮葵町製糸場の図面2Dデータやデジタル3Dデータのオープンソース化により幅広い研究者とのつながりが形成できるのではないか、とかヒト・モノを中心として世代間交流をどのような促進するのかなど、ポジティブな提案を多くいただきました。当館の収蔵資料やこれまでの取り組みの価値を実感・再確認できたと同時に、これからの活動への期待度の高さに身の引き締まる思いです。今後も、博物館の学会や研究会に積極的に参加し情報共有をおこなうことで、館活動に還元していく所存です。



全国科博第27回研究発表大会のテーマは、
《博物館における持続可能性》です。

メディア掲載報告,etc.

➤ 東京農工大学科学博物館事務 鎌田 忍

2020/2/19 婦人画報公式サイト 企画展「猫神様と養蚕展」が紹介される。

2020/2 LIXIL GALLERY WEB 巡回企画展「組紐・ジグザグのマジック」掲載

（LIXIL ギャラリー大阪で当館所蔵の土山コレクションが紹介される予定でしたが、新型コロナウイルス感染拡大防止のため休館中） ※2月1日～3月17日現在までの情報

♪村田町歴史みらい館 石黒氏来訪！

猫の石仏を研究されている村田町歴史みらい館 石黒伸一朗氏が視察に見えました。猫神資料ほか、本学小金井キャンパスの猫の石仏をご覧になりました。休館中に終了となった「猫神様と養蚕展」では対談企画にご参加予定であり、大変残念でした。またの機会に東北地方の猫神資料の話を伺えるのを楽しみにしております。



3月21日、本学小金井キャンパスの猫神を視察されている様子

デジタル教育研究展示室

OPEN！！

◆ デジタル教育研究展示室のご使用に際して ◆

原則として、東京農工大学関係者（学内者）に限りご使用いただくことができます。当館ウェブサイトより「デジタル教育研究展示室使用申込書」をダウンロードしてください。

必要事項をご記入の上、件名を【デジタル教育研究展示室使用】とし当館メールアドレス (kahaku@cc.tuat.ac.jp) までご送信ください。なお、当館の企画展およびイベント等でご使用いただけない場合がございます。予め、お問合せください。



**科学博物館に
デジタル教育研究展示室がOPEN**
令和元年度学長後援費で整備

科学博物館5ヶ年計画（デジタル化によるリニューアル）により整備し、従来の実態展示、動態展示に加えて、臨場感のある大画面映像による展示が可能になりました。現在、サイエンスカフェなどデジタル教育研究展示室を活用した様々な企画を準備中です。

企画展・特別展での利用時以外は、コモンズプレゼンテーションスペースとして開放します。アクティブラーニング、外部へのプリーフィング、プレゼン練習等にご活用ください。
*申し込み方法については当館事務室までお問い合わせください。

企働工寮築町製糸場図面
3D化プロジェクト

4.1
4.11
(予定)

**東京農工大学
科学博物館**
Nature and Science
Museum

住 所：東京都小金井市中町 2-24-16
TEL：042-388-7163
MAIL：kahaku@cc.tuat.ac.jp
URL：http://www.tuat-museum.org

科学博物館事務室便り

➤ 東京農工大学科学博物館事務 石田 朋子

コロナウイルス感染症拡大防止のため、当館は3月7日より4月20日まで臨時休館となりました。

大変好評をいただいております企画展「猫神様と養蚕展」は残念ながら閉館中に終了となってしまいましたが、図録を発行する予定です。今回の展示に入りきらなかったものも収録しています。博物館ウェブサイト等にてお知らせする予定ですので、楽しみにお待ちください。

工学部キャンパス内の桜も満開となりました。次回の博物館ニュース速報発行の際には、ウイルスとそれがもたらす社会の混乱が少しでも収まるよう、願っています。

◆ Information ◆

- ◇ 東京農工大学科学博物館内にデジタル教育研究展示室がオープン！／ご利用希望者は博物館事務室へお問い合わせください。
- ◇ <予告>2020年度春夏期企画展 科学に恋した女性たちー明治から令和へー（6月2日～開催予定／明治から今日までの女性科学者の活躍を紹介する展覧会を開催します。
- ◇ コロナ感染症拡散予防のため現在休館中。／4月20日（火）まで休館の予定ですが、ご来館の折はホームページにてご確認ください。

「科学博物館ニュース速報」第42号

発行日：2020年3月27日

編 集：科学博物館ニュース速報編集委員会

発 行：東京農工大学科学博物館

連絡先：kahaku@cc.tuat.ac.jp

042-388-7163

～編集後記～

100年前に大流行したというスペイン風邪。そして今、コロナウイルス。日々の報道にふと、私たちは歴史的大災禍の渦中にあるのだなと実感します。

休館は寂しいですが、スタッフ一同、新年度の準備や館内および展示・収藏品メンテナンス等に力を注ぎつつ、開館の日を楽しみにしております。

新年度も農工大科博をご愛顧くださいますよう、宜しくお申し上げます。 M